

デザインレクチャー

Design Lecture 2019 Season I

～ 予測不可能な世界を生き抜くための
企画・デザインの発想を学ぶ ～

京都大学デザインスクールで実際に行われている講義を中心に、企業向けに再編したレクチャーシリーズを開催します。予測不可能な時代 (VUCA*) と言われる現在、異質なナレッジ、真の課題発見、解決策のデザイン力が必要とされています。そのためには、異分野の知見を学び、それぞれの分野で培われたデザイン理論・手法を理解し、その礎を築くことが大切です。

本プログラムは、京都大学デザインスクールの教員が、各分野のデザイン理論・手法を説く集中シリーズで、シリーズ全体を通しての受講をお勧めします。

前期の Season I は昨年と同様の内容です。前回都合がつかなかった方、初めての方はもちろん、再度じっくり学びたいという方も、是非受講ください。*単発の受講も可能です。

*VUCA: Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)

第 1 回

人工物の
デザイン

人と機械の共創による
社会技術系のデザイン



榎木 哲夫

Tetsuo Sawaragi

京都大学工学研究科
機械理工学専攻
教授

5/17 15:00
[金] 17:45

第 2 回

サービスの
デザイン

価値共創の理論的視座と
デザインの方法論



山内 裕

Yutaka Yamauchi

京都大学
経営管理大学院
准教授

6/21 15:00
[金] 17:45

第 3 回

表現と認知

デザインに関わる
人の認知と特性



中小路 久美代

Kumiyo Nakakoji

公立はこだて未来大学
システム情報科学部
情報アーキテクチャ学科 教授

7/19 15:00
[金] 17:45

第 4 回

まちづくり
(matidukuri)

国際研究者協力による
「まちづくり」への
直接貢献・研究の進展



神吉 紀世子

Kiyoko Kanki

京都大学工学研究科
建築学専攻
教授

9/13 15:00
[金] 17:45

デザインレクチャー 2019 Season I

主催：デザインイノベーションコンソーシアム
後援：京都大学デザイン学大学院連携プログラム
対象：コンソーシアム会員、非会員・一般
会場：京都リサーチパーク
定員：40名程度 (定員になり次第メ切)

[問合せ] デザインイノベーションコンソーシアム 事務局
メール：info@designinnovation.jp

参加費：会員 無料
非会員・一般 5,000円 (税込) /1回
申込：事前申し込み要 下記 URL よりお申込みください
<http://designinnovation.jp/topics/2019/04/designlecture.html>

申込メ切：第 1 回メ切 2019 年 5 月 10 日 [金]
第 2 回メ切 2019 年 6 月 14 日 [金]
第 3 回メ切 2019 年 7 月 12 日 [金]
第 4 回メ切 2019 年 9 月 6 日 [金]



QRコードより
詳細ページへ
アクセスいただけます。

第1回

人工物のデザイン

人と機械の共創による社会技術系のデザイン

本講義では、人工物のデザイン対象を、技術的要因に加えて人的要因・組織的な要因が相互に複雑に絡む複合体と捉える。とくに、人工物自身の中身と組織である「内部」環境と、人工物がそのなかで機能する環境である「外部」環境、さらにそこに人がどのように人工物とかわるかの「インタラクション」の3つの視点からのデザインを考える。さらに、自動化・知能化等の新たな技術の導入によって抱え込むことが予想される矛盾へも配慮しながら、それへの解消に向けた技術革新について明らかにする。

▶ 榎木 哲夫

京都大学工学研究科 機械理工学専攻 教授



京都大学大学院工学研究科博士後期課程指導認定退学、京都大学工学博士。京都大学工学部助手、助教授、工学研究科准教授を経て、2002年工学研究科精密工学専攻教授、2005年改組により同研究科機械理工学専攻教授、現在に至る。この間、1991-1992年米国スタンフォード大学客員研究員、専門はシステム工学、人間機械系、知能情報処理。ヒューマンインタフェース学会、システム制御情報学会の会長等を歴任。主な編著書に、『知識システム工学』コロナ社ほか。

第2回

サービスのデザイン

価値共創の理論的視座とデザインの方法論

サービス業に限らず、顧客との「価値共創」のためのサービスのデザインは全ての企業、行政、非営利組織に求められている。最近注目を集めるサービスデザインの基本的な考え方を踏まえた後、サービス研究の最先端の議論を通して、サービスデザインを新しい視座から捉え直す。特に、文化を捉えて、新しい文化をデザインしていく方法について概説する。文化の視座から新しい価値を作り出す新しい方法を議論する。

▶ 山内 裕

京都大学経営管理大学院 准教授



京都大学経営管理大学院准教授。京都大学工学部情報工学卒業、同情報学修士、UCLA Anderson SchoolにてPh.D. in Management, Xerox Palo Alto Research Center研究員を経て、京都大学経営管理大学院のサービス価値創造プログラム開始時に着任。シンガポールInstitute on Asian Consumer Insightフェロー、サービス学会理事。

第3回

表現と認知

デザインに関わる人の認知と特性

社会的な文脈において人の関与しない人工物は存在しない。人工物は、人を含む系として人の営為によって構成される。本講義では、人の営為としての知的創造作業や知識共創の側面に焦点をあて、その原理とモデル、および関連する認知科学・社会科学の基礎を解説する。講義においては、人の思考過程に対する表現とそのインタラクティブ性の機能と作用（表現効果）、表示時間のタイミング制御によって生じる人間の知覚と制御（擬似触力覚）、言葉のもつ物質性とコミュニケーションの本質（相互理解）、共創において生じる互惠とインセンティブバランスの認識と影響（ソーシャルキャピタル）といったトピックについて、事例紹介や具体的な実践を交えながら説明する。

▶ 中小路 久美代

公立はこだて未来大学システム情報科学部
情報アーキテクチャ学科 教授



1986年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業、同年(株)SRA。1993年米国コロラド大学コンピュータサイエンス学部よりPh.D.取得。コロラド大学客員助教授、奈良先端科学技術大学院大学客員助教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授を経て、2013年より京都大学デザイン学リーディング大学院特定教授。2019年より現職。専門はヒューマンコンピュータインタラクション、ソフトウェアデザインおよび創造活動支援。特に知的創造作業のためのナレッジインタラクションデザインに関する研究。

第4回

まちづくり (matidukuri)

国際研究者協力による「まちづくり」への 直接貢献・研究の進展

関西で始まった「まちづくり」は、アジア諸国をはじめ各国の研究者や地域コミュニティに知られる概念となり、コミュニティが自立と社会包摂性を獲得し、個人の自己決定を相互に尊重する社会関係のもとで居住環境を進化させていくプロセスと理解されている。その成果は都市域拡大に伴って生じる法定計画管理に留まらない居住地の環境再評価、地域社会の成長が進化的に生み出す魅力の再認識に繋がり、多くの実績を生みつつある。そうした動きを研究者が寄り添い参画するかたちとしての「フィールド・スクール」活動を都市・地域計画の方法として実践してきた実績から、日本、インドネシア、タイ、台湾、ドイツとの共同実践の例を紹介する。

▶ 神吉 紀世子

京都大学工学研究科 建築学専攻 教授



京都大学工学研究科建築学専攻教授。専門分野は都市計画・農村計画。とくに歴史都市・集落の文化的景観保全、居住者主導による自立かつ社会包摂的なまちづくり実践に長期に関わる実践的研究を行う。インドネシア・ボロブドゥール寺院周辺地域でのBorobudur Field School活動ではインドネシアの研究者・農村集落コミュニティとともに10年にわたる文化的景観保全活動を行い農村計画学会賞を受賞。

point

- ✓ それぞれの専門分野における問題の捉え方や解決策のデザイン方法がわかります。
- ✓ 自らの分野・業界の発想や問題の解決方法は限定的であり、バイアスがあると気付きます。
- ✓ どの分野のメンバーでプロジェクトチームを構成すれば、真の問題発見や望ましい解決策のデザインが可能となるか、計画できるようになります。

Time Table



15:00	16:15	16:30	17:45
講義 (前半 75分)	休憩	講義 (後半 75分)	終了

※変更する場合がございます。